



徳嶺勝信

2004年に初めてベトナム・ホーチミンを訪れた。空港から道路に出て驚いたのは、バイクの量だった。どこへ行ってもバイクだらけでバイクの合間を人が縫うように歩いていたのが印象的だった。あれから11年を経た今、相変わらずバイクは多いが確実に車も増えている。それも沖縄で見ないような高級車もたくさん走っている。「ここはベトナムなのか」と錯覚してしまうほどだ。それだけ急速に発展を遂げている。

まずは簡単にベトナムを紹介する。社会主義共和国で、首都はハノイ。面積は九州を除く日本の面積に相当する約33平方キロ。人口は約9千万人で仏教徒が8割を占める。平均年齢は27歳と若く、戦後40年を迎える国である。人口は東南アジア諸国連合(ASEAN)諸国でインドネシア、フィリピンに続き第3位(世界14位)。平均年齢の若さもこの国の魅力である。ベトナム人は真面目で勤勉、日本人とよく似ているといわれている。私が住んでいる南部のホーチミンは

ベトナムの経済急発展

文化や習慣、食べ物など沖縄と共通している点がたくさんある。

今、この国がASEAN諸国の中で最も注目を浴びている、ASEAN経済共同体が今年末に発足する事を皆さんはご存じだろうか。ASEAN10カ国、約6億人を擁する巨大市場で「ヒト、モノ、カネ」の移動が2018年までに完全自由化される。特に注目されるのは、域内の関税が撤廃されることだ。この自由化を狙って日本企業の進出も急激に増えている。

もちろん日本だけではない。近隣のアジア諸国や欧米などさまざまな国と地域から人が集まっている。ベトナムの地理的要素も魅力の一つだ。インドシナ半島の東側に位置し半島の重要な出入り口として位置付けられている。ホーチミンと近隣のカンボジア・プノンペン、タイ・バンコクをつなぐ南部経済回廊といった道路のほか、ベトナム、ラオス、タイを横断する道路の東西経済回廊が完成しており、物流も大幅に改善されている。着実に世界の市場としての準備が整いつつある。沖縄の身近なところに大きな経済圏ができる。大きなビジネスチャンスだ。現在わが社はベトナム政府の事業を手掛けている。この経験を生かし、沖縄とベトナムの懸け橋になりたいと願っている。(JIES代表)

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。